

# 二〇二二年度 丸山眞男研究プロジェクト活動報告

安藤 信廣・黒沢 文貴

はじめに

本プロジェクトは、「新しい世界認識を開く基礎となる教養の重要性が注目されている今日、二〇世紀において様々な知的分野で巨大な足跡を残し、教養についても独自の認識を展開した丸山眞男の業績の再評価が強く求められている」（平成二四年度私立大学研究基盤形成「支援事業構想調書」（以下「構想調書」より）という認識を前提に、次のような目標を掲げて発足した。

- 1 丸山をはじめとする二〇世紀の知識人たちの教養形成過程及び教養観を解明する。
- 2 新渡戸稲造・南原繁・丸山らが知識人の国際的コミュニティ形成に果たした役割を明らかにし、二二世紀における新たな知的コミュニティ形成の方向性を探究する。
- 3 丸山文庫所蔵資料をデジタルアーカイブ化し、広く日本及び世界に向かって公開する。

このような研究目的のもとに、「二二世紀の教養と知のあり方を究明する上で重要な貢献をすること」（「構想調書」概要1「研究目的・

意義」より）が、本プロジェクトの最終目標といえる。

本プロジェクトでは、右の1〜3の研究目標を追求するために、二つの研究テーマを設定した。

〈テーマ1〉二〇世紀知識人の教養と学問——丸山眞男文庫を素材と

して——（代表 安藤信廣）

〈テーマ2〉丸山眞男文庫所蔵資料の調査研究とデジタルアーカイブ構築（代表 黒沢文貴）

二つのテーマのうち、〈1〉は、右の研究目的の1・2に対応し、〈2〉は同じく3に対応している。もちろん、両者は深く関わりあっているので、両テーマの追求は孤立して行われるのではなく、協働し補いあって進められることが前提とされている。

- 二〇二二年度の年次計画では、次のような課題が設定されている。
- (1) 丸山眞男の既刊著書・論文等を網羅的に調査する。（〈テーマ1〉に対応）
- (2) 未公刊草稿資料類の全面的調査と翻刻を開始する。（〈テーマ2〉に対応）

二〇二二年度は本プロジェクト開始年度であり、様々な試行錯誤も

あったが、二度の研究会を含め、両テーマに沿って意欲的な研究活動が進められた。以下、両テーマのそれぞれについて、二〇一二年度の活動状況を報告する。(1)を安藤が、(2)を黒沢が執筆した。

### 〈1〉二〇世紀知識人の教養と学問

——丸山眞男文庫を素材として——

テーマ1は、「二〇世紀知識人の教養と学問——丸山文庫を素材として——」である。二〇一二年度の活動状況は、次の通りである。

#### 一 前近代日本における宗教と政治の検討

幕末期日本の政治思想と宗教との関係について、丸山眞男の既刊著作物を中心に調査しつつ検討を進めた。吉田松陰と漢訳イソップ物語の調査・研究、天皇制と天皇制についての認識の変化史の調査、徳川後期の学問状況の検討、宋学と江戸漢学の関係についての考察など、多岐にわたる内容を対象とした。その際、本誌第八号に掲載された丸山眞男「戦中「東洋政治思想史」講義原稿」(宮村治雄・山辺春彦・金子元・川口雄一)を参照する機会を得た。(安藤信廣・眞壁仁・渡辺浩)

#### 二 戦後日本の民主化と教養・文化・教育をめぐる検討

丸山が師とした長谷川如是閑の教育観を中心に、長谷川及び丸山の既刊資料を中心に調査・検討した。長谷川が「教育者として自覚」す

べき第一義的なことがらとして、日本の教育・教養・文化の伝統についての十分な理解を挙げたこと(「伝統と教育」『改造』一九五二年七月)に着目し、その戦時下での発言等を調査した。(雨田英一)

#### 三 丸山政治学の認識論的な特徴の研究

一九六〇年代の社会運動の国際比較の中で、米国・日本・西欧の社会運動における知識人の位置について考察した。その際、丸山政治学の認識論的特徴についての検討にも及び、一九六〇年代の先進国における知識人と学生の関係の変容についても調査・検討した。(油井大三郎)

#### 四 近代日本におけるリベラルアーツ、教養の系譜の研究

丸山の教養観、及び南原繁の教養観につき検討した。大学におけるリベラルアーツについて、南原・丸山のいくつかの問題提起をとらえ、それぞれの発言に注目しつつ彼らの大学教育論につき調査・検討した。(荻部直)

#### 五 「精神的貴族主義」の検討

丸山の思想の中心をなすとされる「精神的貴族主義」について、丸山の刊行著作物を参照しつつ考察した。研究会・講演会においてもこの点に注意した発言を得、それらをも参考として検討した。(安藤信廣)

## 六 丸山とアメリカの学問・社会・政治との関係についての検討

丸山文庫所蔵の丸山の英文書簡の調査と検討を開始した。現時点で、同資料によって丸山とアメリカとの関係についての立ち入った発言は可能となっていないが、同資料も含めて、アプローチの仕方を再検討しつつ調査・研究を進めている。(湯浅成大・油井大三郎・アンドリュース・バーシェイ)

## 七 近代中国思想の問題性の検討

基礎作業として丸山の既刊著作物を読み進め、丸山の日本政治思想史研究において東アジアがどう位置付けられているか、丸山の議論を踏まえることによつてどのような東アジア論が構築できるか、東アジアからは丸山がどう受け止められているか、について検討した。また、丸山思想史学の方法と視点を援用して近代中国思想の見直しを試みた。特に、国民形成において個人の自由を模索した嚴復の思想の位置付けを検討した。民衆一人一人を社会の基本単位と見なし、個人の自由・自立・理性に立脚した社会を探り、国民の公共性を考察・追求した嚴復の思想構造を省察した。近代中国の主流ナショナリズムをはずれ、かつ主流ナショナリズムの盲点をついた嚴復の思想的価値を考察するとともに、他の思想家・思想潮流についても調査を行った。(茂木敏夫・區建英・孫歌)

## 〈2〉丸山眞男文庫所蔵資料の調査研究と

### デジタルアーカイブ構築

テーマ2は、「丸山眞男文庫所蔵資料の調査研究とデジタルアーカイブ構築」である。二〇一二年度の活動状況は、次の通りである。

## 一 資料の翻刻

### (1) 福沢諭吉に関する資料の翻刻

丸山眞男の福沢諭吉に関する資料は、量が多くかつ錯雑している。そのためこれまででは、大まかな整理にとどまらざるをえなかった。今回あらためて綿密な調査を行ったところ、福沢に関する丸山の講演速記、自筆講演原稿、公刊された講演のこれまで知られなかった別バージョンなどが発見された。(松沢弘陽)

### (2) 「東洋政治思想史講義」の翻刻

丸山文庫所蔵の草稿資料をもとに、「戦中「東洋政治思想史」講義原稿」の翻刻を行い、本誌第八号に掲載した。(宮村治雄・山辺春彦・金子元・川口雄一)

## 二 楽譜類と楽譜への書きこみに関する調査及び公開

土合が行った調査報告をもとに丸山旧蔵の楽譜の書き込み状態を確認し、公開方法の検討を行った。(土合文夫・金子元)

### 三 丸山眞男宛て国内外来簡書簡の調査

丸山文庫に収められた丸山眞男への来簡書簡は、丸山家保管時に基礎的な整理がなされたうえで文庫に移管されたものと、自筆ノート・草稿類・寄贈抜刷などを整理する中で発見されたものとの二種が存在する。これらの整理のため、どのような作業が必要であり、どの程度の時間を要するかに関する、予備調査を行った。中でも発信者中、とくに量が多い人物の書簡を選び、すべてを読んで発信日付を特定した。

(松沢弘陽)

### 四 一九五〇年代後半の日本政治思想史講義の復元

①一九五〇年代後半に丸山眞男が東大法学部で行った講義を復元するために、資料の発掘と収集活動を行った。近藤邦康氏(東大名誉教授)から、一九五六、五七両年度の受講ノートをお借りした。②文庫所蔵の一九五〇年代後半の講義ノート(丸山自筆)の調査を進めた。③丸山眞男研究プロジェクトの第一回研究会において、既刊論文で丸山が日本思想史に対する接近法にふれた言及部分を検討し、その変化過程の跡づけを試みた。(平石直昭・宮村治雄)

### 五 「正統と異端研究会」関係資料の調査と整理

二〇一二年度の活動は主として、①関係者へのヒアリングと、②テープ起し原稿・ゲラ類の整理であった。②の活動の副産物として、二〇一二年九月には、石田雄氏(東大名誉教授)より研究会のレジュメを

含む関係資料一式が、二〇一三年三月には、一九八〇年代の研究会担当編集者であった元筑摩書房の勝股光政氏より録音テープが、それぞれ寄託・寄贈された。その音源資料のデジタル化の作業に着手した。

(中田喜方・河野有理・川口雄一)

### 六 デジタルアーカイブの構築

丸山文庫所蔵草稿類のデジタルアーカイブ構築のため、二〇一二年には事前調査を行った。具体的には、①所蔵資料の内容、②丸山文庫の資料に適したシステムの構築、③著作権者より公開の許諾を得るための手続きについて、調査と検討を進めた。(山辺春彦・堀内健司)

### 七 音声資料のデジタル化と公開

二〇一二年度、以下のカセットテープの寄託・寄贈があった。①石田雄氏より三本、②勝股光政氏より四五本、③増子信一氏(作品社編集者)より二本、④丸山眞男手帖の会より一本(詳細は「二〇一二年度 丸山文庫所蔵資料の公開と利用状況」を参照)。順次、これらのデジタル化を進めた。また、以前にデジタル化を行った音源資料については、公開のための準備を進めた。(川口雄一・播磨崇晃)

### 八 バーチャル書庫の構築

昨年度はバーチャル書庫に詳しい研谷紀夫関西大学准教授にヒアリングを行い、今後の見通しを図書館と文庫スタッフで協議した。その

上で業者にヒアリングを行い、見積書の作成を依頼した。(佐藤美奈子)

#### 九 ホームページの公開

二〇一二年三月二十八日に、丸山真男研究プロジェクトのHPを公開した。URLアドレスは下記の通りである。

<http://www.twcu.ac.jp/facilities/maryama/project/index.html>

(金子元・佐藤美奈子)